

送別の言葉

イズコ神父

私にとって姫路から離れる時が来ました。7年前(2011年4月)大阪教区大司教様の意志に従って姫路教会に来ました。その前8年の間、スペインでいろいろな活動をしてきましたが、日本語を忘れることもありました。姫路教会に来て、カレンガ神父さん、赤窄神父さんと一緒にいろいろな教会(仁豊野、豊岡、佐用、生野・・・)にも宣教と司牧の活動に喜んで出かけました。80才に近づき前田大司教様のところに行き、規則に従って「もうすぐ80才になりますので、私の国に帰らせてください。」とお願いしました。大司教様はちょっと長い沈黙のあと「もう少し和歌山に行き、シスターの修道院で世話することをお願いしてもいいですか」と頼まれたので、私は「はい、行きましょう。」と答えました。何時までになるのかわかりません。又、その教会でどんなお手伝いをするかよくまだ知らないですが…。

この姫路教会の過ぎ去った7年を振り返ると多くの感情があふれてきます。その前にスペインにいる間に母の最期の時と一緒に過ごすことができました。103才で天国に呼ばれましたが、一緒にいた私にとって大きな恵みでした。スペインからまた日本に帰ってすぐ姫路地区に任命され、温かい歓迎を受けたことをよく覚えています。教会にも、となりの淳心会にもシスター修道会にも。教会の宣教活動をするとき、いつも温かく歓迎されて私の好きな聖書の勉強を教えに行く喜びになりました。そして、ほかの司祭たちと一緒に働いて、生活することもできて楽しい7年間でした。またはじめから毎月「朝禱会」に参加して12人くらいのプロテスタントの牧師さんたちと一緒に祈ったり、説教を聴いたり、話し合ったり、朝ご飯と一緒に食べたりすることによって、仲良くして互いに理解を深めたことは大きな恵みだと思います。姫路教会の受付の方、賄いさん、信徒の方々に、感謝一杯の心を持っています。そして何回も自分の足りなさを感じた時、多くの人々の温かい心を感じることもできました。その中に日本人だけではなくベトナム人も韓国人もフィリピン人も…。

みなさまありがとうございました。